



# 日刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

98.3.23 No. 7456

## 強制配転者、検修の仲間を先頭に(3/19)

# 98春闘第1波スト敢然とうちぬく

### ストで元気「回復」 新たな春闘構築へ！ 出発進行！

「九八春闘を「春闘元年」として、闘いぬこう」を合言葉に三月一九日、九六名の仲間が第一波ストに突入し、敢然と闘いぬいた。

一四時には、ストに突入した全員が続々と千葉市民会館に集まる。どの組合員の顔も生き生きしている。ストライキで元気「盛りもり」である。

集会では、田中書記長が「今春闘の課題」を提起、川崎交渉部長がこの間の「強制配転粉砕の署名、一〇三二名分を支社にたたきつけてきた。本格的闘いはこれからだ」と強調すると「ヨーシ」「いいぞ」といった声も出て、会場は一段と盛り上がった。



運輸障害事故は2.2倍に増えた!!  
不当な差別をやめ、  
ベテラン運転士を職場に戻せ!

首切り・リストラ、賃下げ、労働法・  
社会保障制度の改悪を許すな!

今こそ団結し闘いへ!  
98春闘に勝利しよう

### 千葉支社に、怒りのシュプレヒコールたたきつける



## プラカード・横断幕で駅頭宣伝

— 市民も声援 —

スト突入者と動員者が合流、この熱気はそのまま支社抗議にぶつけられていった。怒りに満ちたシュプレヒコールが繰り返され、支社にぶつけられていく。遠巻きに見ている市民からも声援や拍手が送られ、いやがうえにも力のこもった抗議行動としてかちとられた。

三・一九第一波ストの最終行動である総決起集会は、市民会館をうずめる三四〇名の大結集となり、一段とひきしまった空気のなか、中野委員長挨拶、田中書記長の基調報告等に集中し、聞き入っていた。  
熱気盛り上がるなか、強制配転当該者から新たな闘いの決意

寄せられたメッセージ

- 国労小倉地区闘争団日豊オルグ班
- 国鉄高崎動力車連帯労働組合
- 動労西日本
- 動労西日本北陸支部 出口 威
- 合化労働化学一般
- ニッショール・ニプロ支部
- 北富士 忍草母の会
- 福岡県労働組合交流センター
- 広島交流センター教労部会
- 港合同南労会支部
- 都政を革新する会 長谷川英憲
- 杉並区議 けしば誠一
- 同 新城 節子
- 婦人民主クラブ全国協議会 西村綾子
- 沖縄労働組合交流センター
- 高陽第一診療所労組 委員長高橋広子

とスト突入のそれぞれの支部の代表から、これからの闘いに向けた決意が述べられる。

特に貨物の新小岩、千葉機面支部から、JR貨物の危機的現状の暴露と格差粉砕、ベ・アゼ口攻撃粉砕にむけて第二波ストを先頭で闘いぬく力強い闘争宣言が発表された。

全参加者も貨物の仲間の怒りを共有し、JR総連革マル解体の闘いをさらに強め、九八春闘貫徹にむけて奮闘することを誓い合い、終了した。

動労千葉は、第一波スト貫徹で闘う団結をより強固にうち固めたのである。